

大学院という選択肢もあります

国内大学卒業後に目指す、海外の大学院

海外の大学院で学ぶ意義

海外の大学院で学ぶことは、深い専門知識を身に付け、日本のみならず世界に人脈や知識の幅を広げられることにつながります。留学生が各国から集まり、学術研究を目的として日々研鑽したり、キャリアゴールを見据えた実践的な学びの場として知識を吸収し、スキルを養成したりしています。

海外で管理職に就くためには、大学院卒業資格が求められることが多くあります。また学位取得後の進路として、高度な専門性が必要となる教授や研究者、また大学院卒業資格を必須とする国際公務員、各業界の専門家やリーダー、スタートアップ起業等、可能性は大きく広がっています。複数の国を舞台に活躍するグローバル人材となるためには、海外の大学院で学ぶ経験が大いに役立ちます。

海外の大学院に入学するための資格

それでは、大学卒業後の進路先として、海外の大学院を考えてみたことはあるでしょうか。「入学はとても困難で自分には無理」と思う人も多いかもしれません。しかし、海外のほとんどの大学と同じく、大学院の入学許可を受けるためには、入試ではなく、書類審査が基本となります。そのためスケジュールをしっかりと立て、出願準備を行えば、決して不可能なことではありません。

海外の大学院には、大学卒業資格が必要です。具体的には以下のような人が進学可能です。

- ・大学を卒業した（卒業見込みの）人
- ・大学を卒業して就職し、その後大学院で学ぶことを希望する人

海外の大学に進学をしなくても、日本の大学を卒業した後に、「海外で学びたい」という目標を達成することができます。また就職後、必要な知識やスキル、資格を身に付けるために大学院に入学することも可能です。

学位や取得までの期間

国により、大学院の制度は異なります。得られる学位は、修士号 (Master's Degree)、博士号 (Doctor's Degree) です。その他の学位がある国もあります。

■修士号 (Master's Degree) 取得までの期間

- ・アメリカ、カナダ： 約2年間
- ・イギリス： 約1年間
- ・オーストラリア、ニュージーランド： 約1年～2年間

※大学や専攻により、期間はそれぞれ異なります。

大学院は大きく2種類に分類されます。

学術系大学院	学術的な研究や教育を主眼とする。人文科学、社会科学や理学、工学、応用科学などの学位を授与する。
専門職系大学院	特定の分野の専門職教育が目的で、実践経験を重視する。代表的な専攻として、MBA(経営学修士)やロースクール(法律大学院)がある。

大学院進学に必要なもの

大学院進学の出願に必要な主なものは以下の通りです。

英語力	TOEFL iBT [®] 、IELTS [™] 等の試験スコア。出願大学・コースにより必要なスコアが異なる。
推薦状	出身大学の教員など、信頼できる人物に英語で書いてもらう。通常2～3人必要。
エッセイ	求められるテーマについて英語で作成する。
GPA(成績証明)	在籍大学から発行してもらう英文の成績証明書。
GMAT、GRE	GMATはMBA(経営学修士)に出願する際に求められる試験。 GREは英語で基礎学力を図る試験。 どちらもアメリカ・カナダ等北米の大学院で、出願の際にスコアが求められることが多い。科目は英語・数学・ライティング。GMATは加えて総合問題がある。

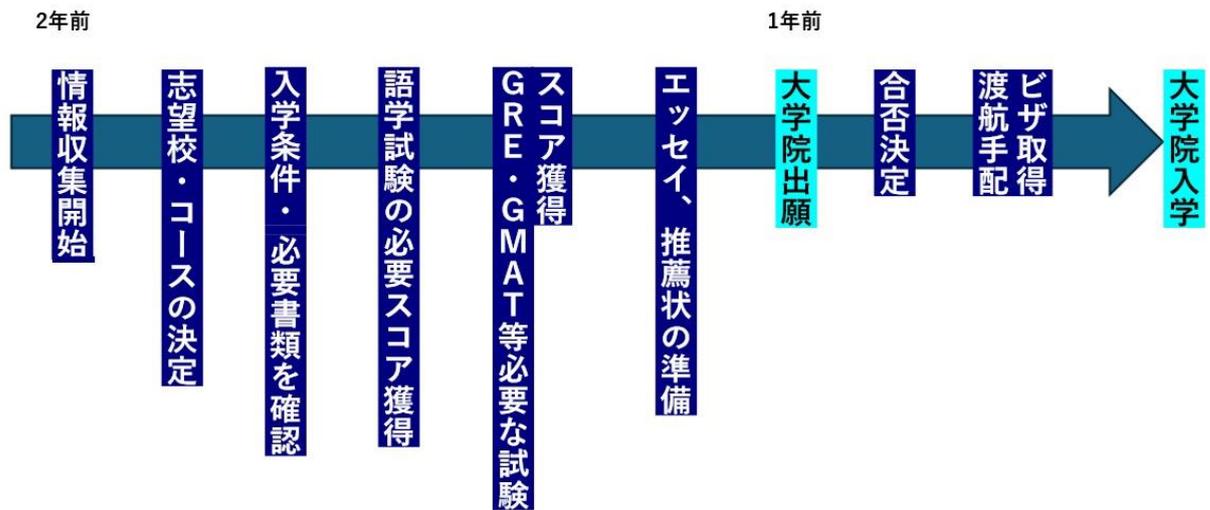
※出願書類はそれぞれの大学で異なります。出願前に必ず確認して下さい。

専攻によっては、関連分野の職歴が必須の場合があることにも注意しましょう。また大学の成績が規定のスコアに不足している場合、大学院準備コースがある大学を選び、そこからスタートすることも可能です。

大学院出願スケジュール

出願先により異なりますが、準備には2年程度かけるのが一般的です。

【大学院出願スケジュール例】



海外の大学院への進学を検討する上で考えるべきこと

入学のためには準備期間も含め費用と時間がかかります。また、入学後には「教えてもらう」という受け身の姿勢ではなく、積極的に自ら学ぶ行動が期待されます。大学院に進むことを目的とせず、身に付けたい知識やスキルのために大学院進学は必要か、また、そのためにはどのような大学・専攻が目的に叶うのか、よく考察する必要があります。

自己分析をしっかりと行い、自分の人生のキャリアの一部として、目的意識をもって大学院進学を考えてみてください。